

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次）医学研究科医科学専攻（M）

1. <コースの定員の有無が不明確>

「医療科学コース」と「社会健康医療学コース」の2つのコースについて、各コースの定員の有無が明示されていないことから、その有無を明らかにすること。また、定員の有無に応じて、以下について明確に説明すること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

（1）定員が設けられている場合、各コースへの学生の振り分けがどのようになされるか不明確であることから、学生の成績等を考慮するか否かも含めて、明確に説明すること。

（2）定員が設けられていない場合、どちらかのコースに偏りが生じた際においても、支障なく指導等が行える適切な指導体制が確保されているか不明確であることから、明確に説明すること。

2. <学生確保の見通しが不明確>

本課程に入学する者として「病院勤務のコメディカル等を含むキャリアアップを望む社会人」が想定されており、係る学生確保の見通しの根拠として、社会人を対象としたアンケート調査結果が示されている。しかし、「現在の勤務場所・職種」に係る設問に対する有効回答数65のうち、「病院」と答えた者が「0」、「保健・福祉施設」と答えた者が「2」となっており、適切なニーズが把握されているとは言い難（がた）い。社会人の進学希望者に係る学生確保の見通しについて、入学を想定している者に整合したニーズを明らかにした上で説明するとともに、入学定員の設定の妥当性についても明確に説明すること。また、入学を想定している「コメディカル」の定義が不明確であることから、併せて説明すること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

3. <社会人学生及び教員にとって無理のないカリキュラムか不明確>

時間割や教員の勤務シフト等が明示されておらず、社会人学生及び教員それぞれにとって無理なく実現可能なカリキュラムとなっているか不明確であることから、明確に説明すること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 3

4. <留学生に係る対応が不明確>

設置の必要性に係る説明に「アジア地域からの幅広い学部出身者の入学を受け入れる」との記載があるが、留学生の日本語能力等の資格要件や、入学後の履修指導や生活指導等書に係る配慮等について具体的な説明がないことから、留学生の受入れに係る対応について明確に説明すること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 6

5. <履修モデルが不明確>

教育課程の大部分が選択科目によって構成されているため、学生が希望するキャリアパスに照らして履修すべき科目を選択することが困難と考えられることから、育成する人材像に照らした履修モデルを複数明示すること。(是正事項)・・・・・・・・・・ 19

6. <成績評価の対象が不適切>

シラバスにおいて、「授業の出欠席状況」を成績評価の対象としている不適切な科目が散見されることから、適切に改めること。(是正事項)・・・・・・・・・・ 21

7. <適切な成績評価が可能か不明確>

オムニバス方式で実施する科目について、非常に多くの教員が担当する科目が散見されるが、多くの教員が関与した上で成績の評価の際に公正公平な成績評価が可能な体制となっているか不明確なためため、明確に説明すること。(改善事項)・・・・・・・・・・ 22

8. <教員組織の適正性が不明確>

「本課程の全専任教員は、本学医学部及び大学院医学研究科医学専攻（博士課程）の教員を兼務している」との記載があるが、本課程の運営に支障を来すことなく、教育・研究に係る質を担保できる適正な教員組織となっているか不明確であることから、明確に説明すること。(改善事項)・・・・・・・・・・ 23

(是正事項) 医学研究科医科学専攻 (M)

1. <コースの定員の有無が不明確>

「医療科学コース」と「社会健康医療学コース」の2つのコースについて、各コースの定員の有無が明示されていないことから、その有無を明らかにすること。また、定員の有無に応じて、以下について明確に説明すること。

(1) 定員が設けられている場合、各コースへの学生の振り分けがどのようになされるか不明確であることから、学生の成績等を考慮するか否かも含めて、明確に説明すること。

(2) 定員が設けられていない場合、どちらかのコースに偏りが生じた際においても、支障なく指導等が行える適切な指導体制が確保されているか不明確であることから、明確に説明すること。

(対応)

医科学専攻の定員を4名とし、各コースの定員は設けない。どちらかのコースに学生数の偏りが生じた場合でも、コース科目の講義・演習で使用する講義室・施設は十分な広さと設備を確保している。また、特別研究においても、担当教員15名のうち、医療科学コース担当が8名、社会健康医療学コース担当が7名であり、適切な指導が可能である。

以上について「設置の趣旨等を記載した書類」の「4-2 コースの設置」(12ページ)において明記する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (12ページ)

新	旧
4-2 コースの設置 医科学専攻の下に2コースを設置することにより、各コースにおいて養成する人材に沿った教育内容を編成する(表4)。医科学専攻の定員を4名とし、各コースの定員は設けない。どちらかのコースに学生数の偏りが生じた場合でも、コース科目の講義・演習で使用する講義室・施設は十分な広さと設備を確保している。また、特別研究においても、担当教員15名のうち、医療科学コース担当が8名、社会健康医療学コ	4-2 コースの設置 医科学専攻の下に2コースを設置することにより、各コースにおいて養成する人材に沿った教育内容を編成する(表4)。

<u>ース担当が7名であり、適切な指導が可能である。</u>	
--------------------------------	--

(是正事項) 医学研究科医科学専攻 (M)

2. <学生確保の見通しが不明確>

本課程に入学する者として「病院勤務のコメディカル等を含むキャリアアップを望む社会人」が想定されており、係る学生確保の見通しの根拠として、社会人を対象としたアンケート調査結果が示されている。しかし、「現在の勤務場所・職種」に係る設問に対する有効回答数65のうち、「病院」と答えた者が「0」、「保健・福祉施設」と答えた者が「2」となっており、適切なニーズが把握されているとは言い難（がた）い。社会人の進学希望者に係る学生確保の見通しについて、入学を想定している者に整合したニーズを明らかにした上で説明するとともに、入学定員の設定の妥当性についても明確に説明すること。また、入学を想定している「コメディカル」の定義が不明確であることから、併せて説明すること。

(対応)

進学希望者を対象とした当初のアンケート調査では、病院宛の郵送によるアンケートの回収率が非常に低かった。そこで、病院勤務のコメディカルに対して、現場に直接依頼する形でのアンケート調査を新たに3つの病院において実施した。ただし、アンケート調査の客観性を担保するため、本学附属病院は対象外とした。入学を想定している「コメディカル」は、看護師、理学療法士、診療放射線技師、作業療法士、臨床検査技師、言語聴覚士等、6年制以外の大学や専門学校等を修了した医療職者である。追加のアンケート調査では、これらの職種のコメディカル(132名)から回答が得られた。

また、新たに5つの「保健・福祉施設」においても、アンケート調査を行った。しかし保健・福祉施設は1施設当たりの進学対象者となる職員数が少なく、期限内での回答数の増加は5名(計7名)にとどまった。

新たなアンケート調査結果と合わせて「大阪医科大学に医学研究科修士課程が設置された場合、進学したいと考えますか」という設問に対する有効回答609名のうち、「進学したい」との回答が34名であった(新【資料2-1】設問9)。

以上のことから、本修士課程の設定した入学定員4名は十分に確保が可能であると考えられる。

以上にしたがって、「学生確保の見通し等を記載した書類」の「(1)①のイ「定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」(2-4ページ)、「【資料2-1】アンケート集計・進学希望者(全員)」及び「【資料2-4】アンケート集計・進学希望者(社会人:行政、企業)」を修正した。

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類 (2-4 ページ)

新	旧
<p>イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要</p> <p><受験対象者へのアンケート調査></p> <p>定員の設定にあたり、本学の所在地である北摂地域を中心とする、大阪府北部から京都府に位置する大学（工学系 2 大学、社会安全・医療経営系 2 大学、看護系 2 大学（ただし、より客観性を担保するため、本学看護学部以外を対象）、医療関連企業 15 社、及び <u>7 病院（本学附属病院は対象外）、4 行政機関</u>に対して、進学希望者を対象としたアンケート調査を行った（実施期間：平成 30 年 11 月～平成 31 年 1 月、<u>及び令和元年 6 月に病院と保健・福祉施設を対象に追加実施</u>）。【資料 1：アンケート用紙（進学希望者用）】【資料 2-1：アンケート集計・進学希望者（全員）】</p> <p>アンケートに対する回答数は工学系学部生 806 名【資料 2-2：アンケート集計・進学希望者（大学生：理工）】、看護・社会安全・医療経営系学部生 455 名【資料 2-3：アンケート集計・進学希望者（大学生：看護、その他）】、行政・企業等の社会人 <u>200 名</u>【資料 2-4：アンケート集計・進学希望者（社会人：行政、企業）】（計 <u>1461</u> 名）であった。学部生の回答者は第 1 学年が有効回答数の 34%、第 2 学年 39%、第 3 学年 17%、第 4 学年 10%であり、アンケート時点で卒後の進路が既に決まっていると思われる高学年生は少なかった。社会人の回答者は 20 歳代 <u>38%</u>、30 歳代 <u>33%</u>、40 歳代以上 <u>29%</u>であり、<u>若手から中堅の者まで、まんべんなく回答が得られた。</u></p>	<p>イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要</p> <p><受験対象者へのアンケート調査></p> <p>定員の設定にあたり、本学の所在地である北摂地域を中心とする、大阪府北部から京都府に位置する大学（工学系 2 大学、社会安全・医療経営系 2 大学、看護系 2 大学（ただし、より客観性を担保するため、本学看護学部以外を対象）、医療関連企業 15 社、及び 4 病院、4 行政機関に対して、進学希望者を対象としたアンケート調査を行った（実施期間：平成 30 年 11 月～平成 31 年 1 月）。【資料 1：アンケート用紙（進学希望者用）】【資料 2-1：アンケート集計・進学希望者（全員）】</p> <p>アンケートに対する回答数は工学系学部生 806 名【資料 2-2：アンケート集計・進学希望者（大学生：理工）】、看護・社会安全・医療経営系学部生 455 名【資料 2-3：アンケート集計・進学希望者（大学生：看護、その他）】、行政・企業等の社会人 63 名【資料 2-4：アンケート集計・進学希望者（社会人：行政、企業）】（計 1324 名）であった。学部生の回答者は第 1 学年が有効回答数の 34%、第 2 学年 39%、第 3 学年 17%、第 4 学年 10%であり、アンケート時点で卒後の進路が既に決まっていると思われる高学年生は少なかった。社会人の回答者は 20 歳代 16%、30 歳代 38%、40 歳代以上 46%であり、中堅以上と考えられる者が多く、若手の回答者は少なかった。</p> <p>工学部生においては、医学・医療系の修士課程への進学希望者が「卒業後すぐに進</p>

工学部生においては、医学・医療系の修士課程への進学希望者が「卒業後すぐに進学したい」が有効回答数の 8.7%（「社会人としてキャリアを積んでから進学したい」と合わせると 10%）あり、医学・医療分野に関心の高い工学部生が一定数存在することを示している。看護その他の学部生においても、将来も含めて医学・医療系の修士課程への進学希望者が 8%存在した。

医学・医療系のどの分野での学修が将来のキャリアアップに役立つと考えるかという質問に対しては、学生は所属学部にかかわらず「①臨床の現場での検査・診断の実際」という回答が最多であった。このことは、実際の医療の現場で学びたいという学生の希望を反映しているとともに、本修士課程の特徴である「附属病院を活用した演習を主体としたカリキュラム」と合致していると考えられる。社会安全・医療経営系を含む看護その他の学部生においては、「⑥災害医療などの災害危機管理学」～「⑨健康・疾患に関わる社会行動科学」の選択肢を選んだ者の合計が有効回答数の 35%と、工学系学部生（22%）より高かった。社会人においては、「①臨床の現場での検査・診断の実際」～「③医学の現場での研究の実際」のみならず、「⑤医療統計学などのデータ科学」「⑧在宅医療、終末期医療などを含む福祉」「⑨健康・疾患に関わる社会行動科学」を選択した者が多かった。

本修士課程 2 コースのどちらで学びたいかという質問に対しては、工学系学部生は「医療科学コース」が大部分（有効回答数の 85%）であった。看護その他の学部生においては「社会健康医療学コース」が 41%であったが、意外にも「医療科学コース」

が有効回答数の 8.7%（「社会人としてキャリアを積んでから進学したい」と合わせると 10%）あり、医学・医療分野に関心の高い工学部生が一定数存在することを示している。看護その他の学部生においても、将来も含めて医学・医療系の修士課程への進学希望者が 8%存在した。

医学・医療系のどの分野での学修が将来のキャリアアップに役立つと考えるかという質問に対しては、学生は所属学部にかかわらず「①臨床の現場での検査・診断の実際」という回答が最多であった。このことは、実際の医療の現場で学びたいという学生の希望を反映しているとともに、本修士課程の特徴である「附属病院を活用した演習を主体としたカリキュラム」と合致していると考えられる。社会安全・医療経営系を含む看護その他の学部生においては、「⑥災害医療などの災害危機管理学」～「⑨健康・疾患に関わる社会行動科学」の選択肢を選んだ者の合計が有効回答数の 35%と、工学系学部生（22%）より高かった。社会人においては、行政機関に勤める者が回答者の約半数であることから、「④公衆衛生学、疫学などの社会医学」「⑤医療統計学などのデータ科学」「⑨健康・疾患に関わる社会行動科学」を選択した者が多かった。

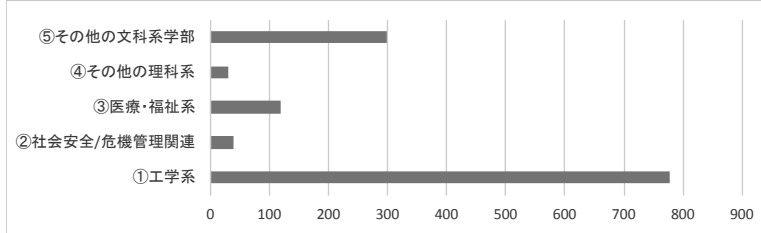
本修士課程 2 コースのどちらで学びたいかという質問に対しては、工学系学部生は「医療科学コース」が大部分（有効回答数の 85%）であった。看護その他の学部生においては「社会健康医療学コース」が 41%であったが、意外にも「医療科学コース」と回答した者が 59%もあった。社会人では「社会健康医療学コース」が 72%であった。最も重要な質問である、大阪医科大学に

<p>と回答した者が 59%もあった。社会人では「社会健康医療学コース」が 63%であった。</p> <p>最も重要な質問である、大阪医科大学に医学研究科修士課程が設置された場合に進学したいと考えるかという質問に対しては、「進学したい」と回答した者が工学系学部生 22 名、看護その他の学部生 5 名、社会人 7 名であった。「将来の選択肢として考えられる」と回答した者が工学系学部生 63 名、看護その他の学部生 17 名、社会人 24 名であった。大学学部生の 27 名（約 6 名/学年）が「進学したい」と回答している。</p> <p>今回、アンケート調査をおこなったのは、工学系 2 大学、社会安全・医療経営系 2 大学、看護系 2 大学に限られる。本学が位置する北摂を中心とする京阪神地域には、工学系学部、看護学部、看護学以外の医療・福祉系学部を有する大学が数多く存在している。また、<u>病院 (7 施設)</u>、<u>企業 (15 社)</u> や <u>行政機関 (4 機関)</u> についても同様である。したがって、本修士課程への潜在的な進学ニーズは、今回のアンケート調査で得られた結果より、さらに高いと推測される。</p> <p>以上のことから、本修士課程の設定した入学定員 4 名は十分に確保が可能であると考えている。</p>	<p>医学研究科修士課程が設置された場合に進学したいと考えるかという質問に対しては、「進学したい」と回答した者が工学系学部生 22 名、看護その他の学部生 5 名、社会人 3 名であった。「将来の選択肢として考えられる」と回答した者が工学系学部生 63 名、看護その他の学部生 17 名、社会人 6 名であった。大学学部生の 27 名（約 6 名/学年）が「進学したい」と回答している。</p> <p>今回、アンケート調査をおこなったのは、工学系 2 大学、社会安全・医療経営系 2 大学、看護系 2 大学に限られる。本学が位置する北摂を中心とする京阪神地域には、工学系学部、看護学部、看護学以外の医療・福祉系学部を有する大学が数多く存在している。また、企業や行政機関についても同様である。したがって、本修士課程への潜在的な進学ニーズは、今回のアンケート調査で得られた結果より、さらに高いと推測される。</p> <p>以上のことから、本修士課程の設定した入学定員 4 名は十分に確保が可能であると考えている。</p>
--	--

(新) 学生の確保の見通し等を記載した書類【資料2-1】

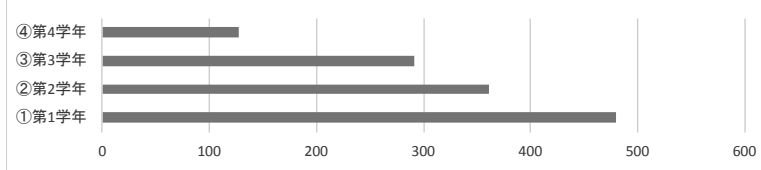
【進学希望者(全員)】アンケート集計 最終版(6/14)

1. 【大学】学部(学科)



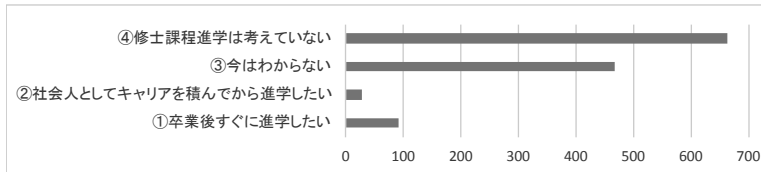
①工学系	777
②社会安全/危機管理関連	38
③医療・福祉系	119
④その他の理科系	29
⑤その他の文科学部	298
有効回答数	1261

2. 【大学】学年



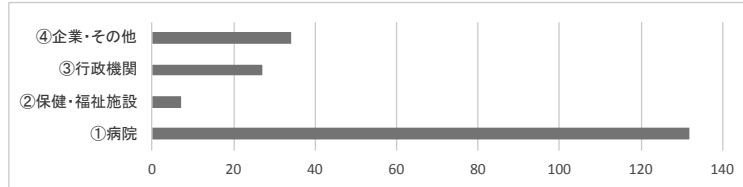
①第1学年	480
②第2学年	361
③第3学年	291
④第4学年	128
有効回答数	1260

3. 【大学】修士課程で医学・医療に関して学びたいと考えていますか。



①卒業後すぐに進学したい	92
②社会人としてキャリアを積んでから進学したい	28
③今はわからない	468
④修士課程進学は考えていない	664
有効回答数	1252

4. 【社会人】現在の勤務場所・職種



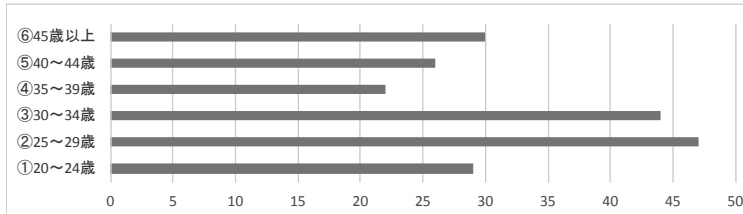
①病院	132
②保健・福祉施設	7
③行政機関	27
④企業・その他	34
有効回答数	200

4. 自由記述

保健師 BML 研究 CRO 製造管理
 看護師 医療機器 システム開発 情報サービス 製造業
 心理職 医療機器開発 事務職 製造、化学 製薬
 言語聴覚士 臨床検査技師 放射線技師 診療放射線技師 作業療法士

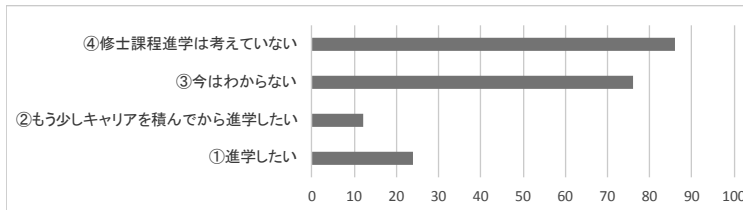
市役所子ども未来部PHN
 大学・職員
 医療技術職
 理学療法士

5. 【社会人】年齢



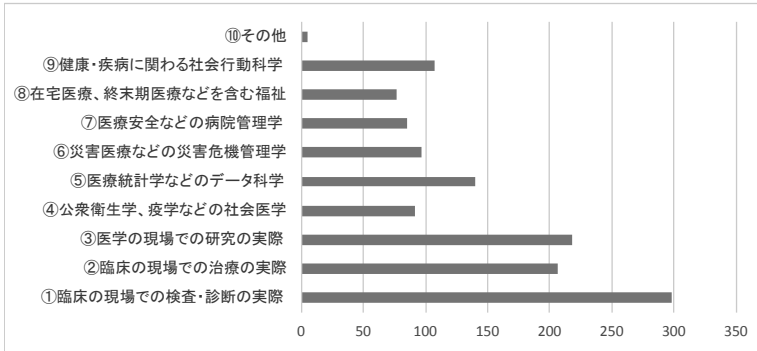
①20～24歳	29
②25～29歳	47
③30～34歳	44
④35～39歳	22
⑤40～44歳	26
⑥45歳以上	30
有効回答数	198

6. 【社会人】修士課程で医学・医療に関して学びたいと考えていますか。



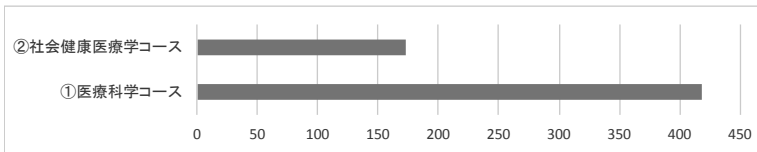
①進学したい	24
②もう少しキャリアを積んでから進学したい	12
③今はわからない	76
④修士課程進学は考えていない	86
有効回答数	198

7. 医学・医療のどの分野での学修が将来のキャリアアップに役立つと考えますか。(複数回答可)



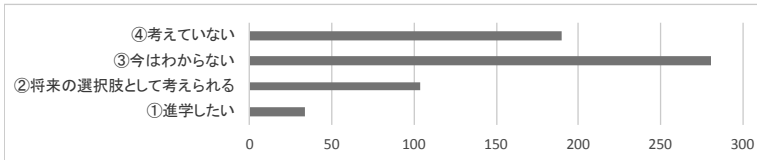
①臨床の現場での検査・診断の実際	298
②臨床の現場での治療の実際	206
③医学の現場での研究の実際	218
④公衆衛生学、疫学などの社会医学	92
⑤医療統計学などのデータ科学	140
⑥災害医療などの災害危機管理学	97
⑦医療安全などの病院管理学	85
⑧在宅医療、終末期医療などを含む福祉	77
⑨健康・疾病に関わる社会行動科学	107
⑩その他	5
有効回答数	1325

8. 設置予定の2つのコースのどちらで学びたいと考えますか。



①医療科学コース	418
②社会健康医療学コース	173
有効回答数	591

9. 大阪医科大学に医学研究科修士課程が設置された場合、進学したいと考えますか。

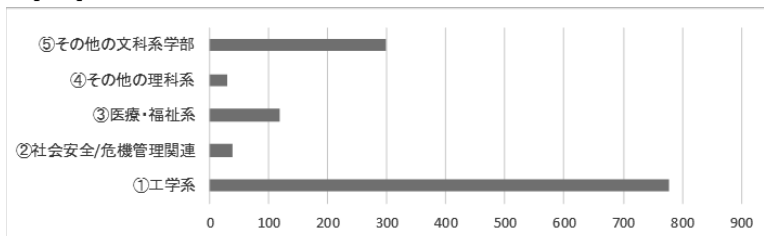


①進学したい	34
②将来の選択肢として考えられる	104
③今はわからない	281
④考えていない	190
有効回答数	609

(旧) 学生の確保の見通し等を記載した書類【資料2-1】

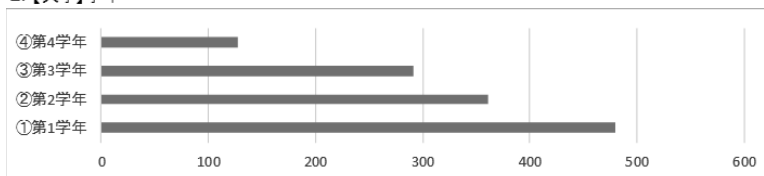
【進学希望者(全員)】アンケート集計 最終版(1/25)

1. 【大学】学部(学科)



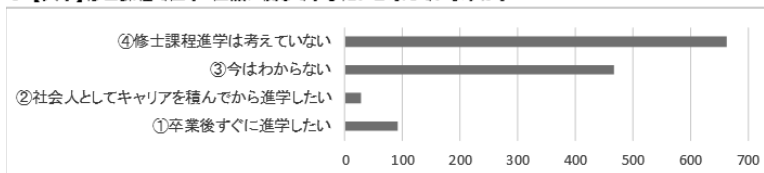
①工学系	777
②社会安全/危機管理関連	38
③医療・福祉系	119
④その他の理科系	29
⑤その他の文系学部	298
有効回答数	1261

2. 【大学】学年



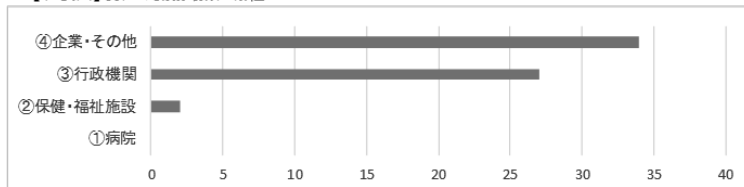
①第1学年	480
②第2学年	361
③第3学年	291
④第4学年	128
有効回答数	1260

3. 【大学】修士課程で医学・医療に関して学びたいと考えていますか。



①卒業後すぐに進学したい	92
②社会人としてキャリアを積んでから進学したい	28
③今はわからない	468
④修士課程進学は考えていない	664
有効回答数	1252

4. 【社会人】現在の勤務場所・職種



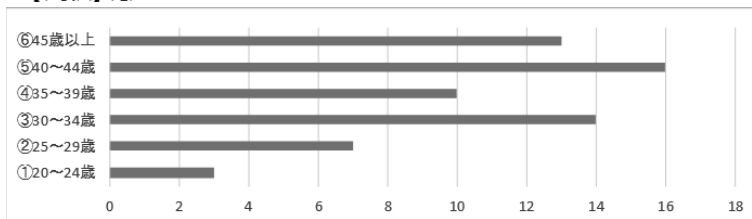
①病院	0
②保健・福祉施設	2
③行政機関	27
④企業・その他	34
有効回答数	63

4. 自由記述

保健師 EML 研究 CRO 製造管理
 看護師 医療機器 システム開発 情報サービス 製造業
 心理職 医療機器開発 事務職 製造、化学 製薬

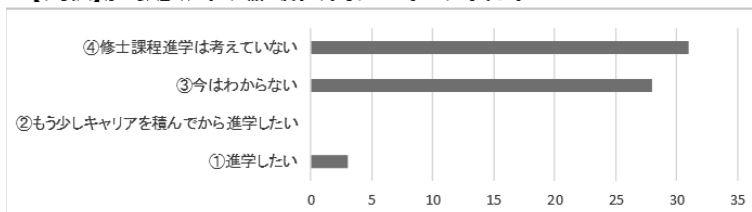
市役所子ども未来部PHN
 大学・職員

5. 【社会人】年齢



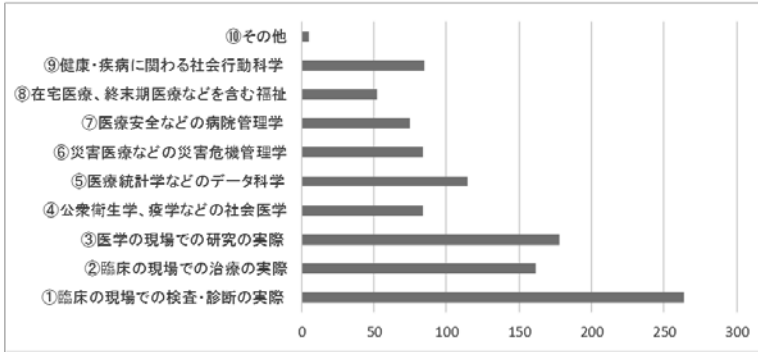
①20~24歳	3
②25~29歳	7
③30~34歳	14
④35~39歳	10
⑤40~44歳	16
⑥45歳以上	13
有効回答数	63

6. 【社会人】修士課程で医学・医療に関して学びたいと考えていますか。



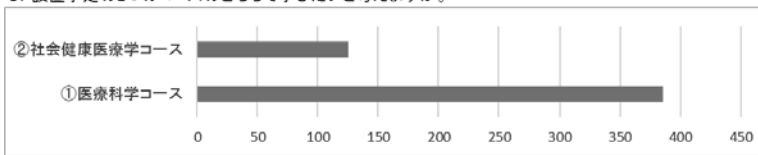
①進学したい	3
②もう少しキャリアを積んでから進学したい	0
③今はわからない	28
④修士課程進学は考えていない	31
有効回答数	62

7. 医学・医療のどの分野での学修が将来のキャリアアップに役立つと考えますか。(複数回答可)



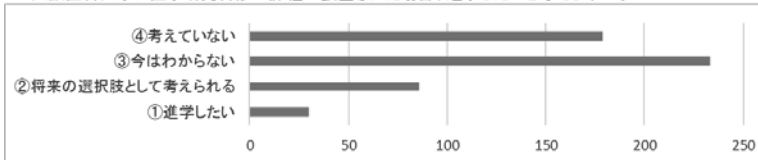
①臨床の現場での検査・診断の実際	264
②臨床の現場での治療の実際	162
③医学の現場での研究の実際	178
④公衆衛生学、疫学などの社会医学	84
⑤医療統計学などのデータ科学	115
⑥災害医療などの災害危機管理学	84
⑦医療安全などの病院管理学	75
⑧在宅医療、終末期医療などを含む福祉	52
⑨健康・疾病に関わる社会行動科学	85
⑩その他	5
有効回答数	1104

8. 設置予定の2つのコースのどちらで学びたいと考えますか。



①医療科学コース	386
②社会健康医療学コース	125
有効回答数	511

9. 大阪医科大学に医学研究科修士課程が設置された場合、進学したいと考えますか。

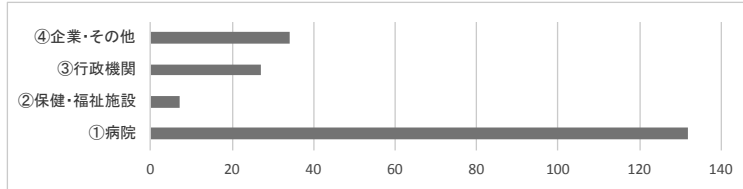


①進学したい	30
②将来の選択肢として考えられる	86
③今はわからない	233
④考えていない	179
有効回答数	528

(新) 学生の確保の見通し等を記載した書類【資料2-4】

【進学希望者(社会人:行政・企業)】アンケート集計 最終版(6/14)

4. 【社会人】現在の勤務場所・職種

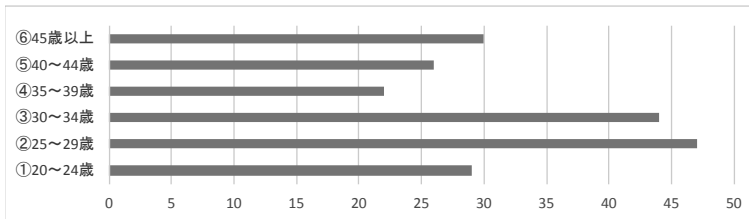


①病院	132
②保健・福祉施設	7
③行政機関	27
④企業・その他	34
有効回答数	200

4. 自由記述

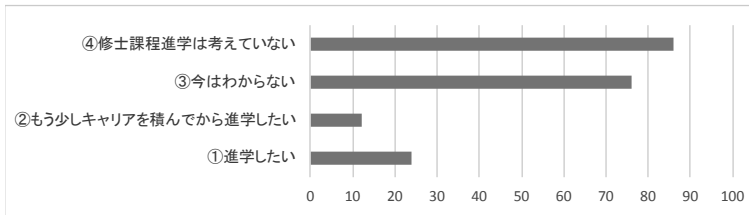
保健師	BML	研究	CRO	製造管理	市役所子ども未来部PHN
看護師	医療機器	システム開発	情報サービス	製造業	大学・職員
心理職	医療機器開発	事務職	製造、化学	製薬	医療技術職
言語聴覚士	臨床検査技師	放射線技師	診療放射線技師	作業療法士	理学療法士

5. 【社会人】年齢



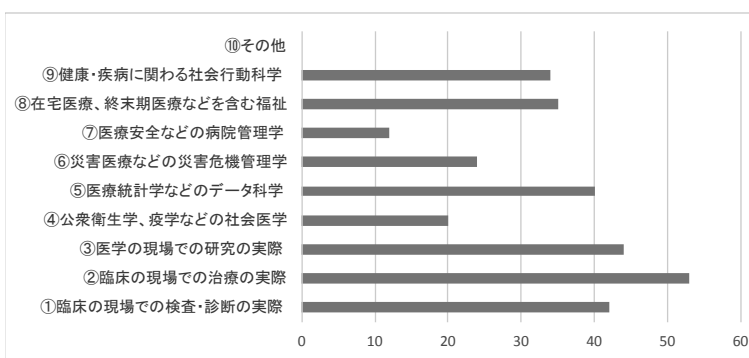
①20～24歳	29
②25～29歳	47
③30～34歳	44
④35～39歳	22
⑤40～44歳	26
⑥45歳以上	30
有効回答数	198

6. 【社会人】修士課程で医学・医療に関して学びたいと考えていますか。



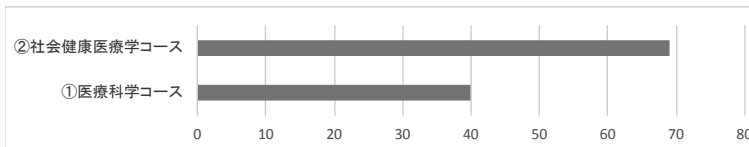
①進学したい	24
②もう少しキャリアを積んでから進学したい	12
③今はわからない	76
④修士課程進学は考えていない	86
有効回答数	198

7. 医学・医療のどの分野での学修が将来のキャリアアップに役立つと考えますか。(複数回答可)



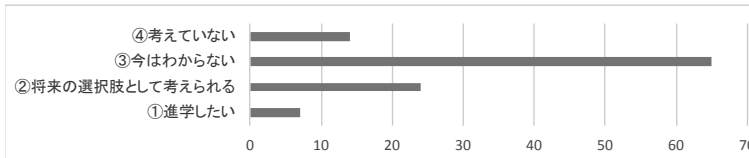
①臨床の現場での検査・診断の実際	42
②臨床の現場での治療の実際	53
③医学の現場での研究の実際	44
④公衆衛生学、疫学などの社会医学	20
⑤医療統計学などのデータ科学	40
⑥災害医療などの災害危機管理学	24
⑦医療安全などの病院管理学	12
⑧在宅医療、終末期医療などを含む福祉	35
⑨健康・疾病に関わる社会行動科学	34
⑩その他	0
有効回答数	304

8. 設置予定の2つのコースのどちらで学びたいと考えますか。



①医療科学コース	40
②社会健康医療学コース	69
有効回答数	109

9. 大阪医科大学に医学研究科修士課程が設置された場合、進学したいと考えますか。

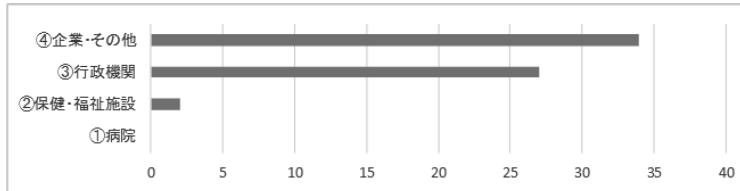


①進学したい	7
②将来の選択肢として考えられる	24
③今はわからない	65
④考えていない	14
有効回答数	110

(旧) 学生の確保の見通し等を記載した書類【資料2-4】

【進学希望者(社会人:行政・企業)】アンケート集計 最終版(1/25)

4. 【社会人】現在の勤務場所・職種

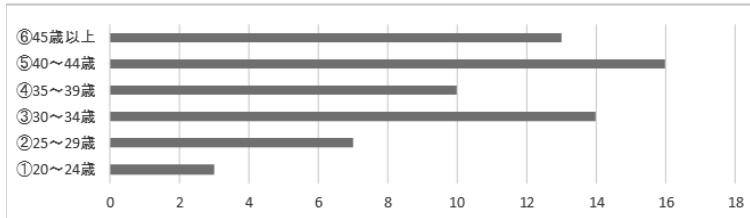


①病院	0
②保健・福祉施設	2
③行政機関	27
④企業・その他	34
有効回答数	63

4. 自由記述

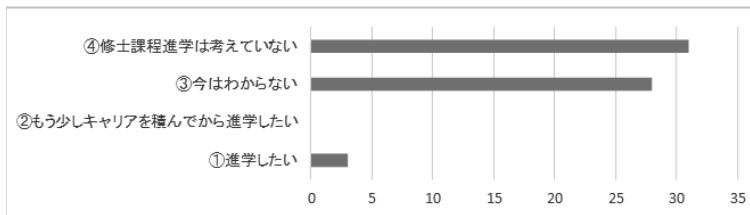
保健師 EML 研究 ORO 製造管理 市役所子ども未来部PHN
 看護師 医療機器 システム開発 情報サービス 製造業 大学・職員
 心理職 医療機器開発 事務職 製造、化学 製薬

5. 【社会人】年齢



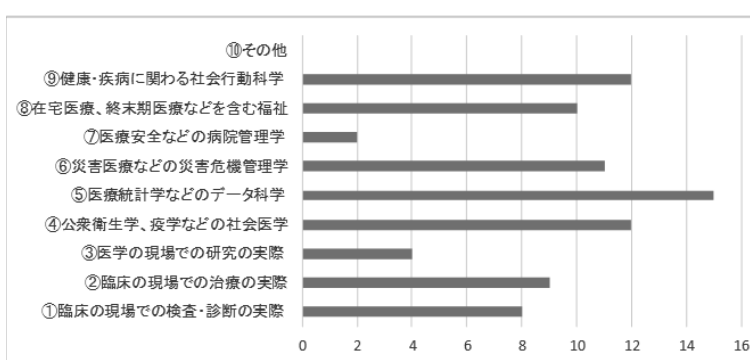
①20～24歳	3
②25～29歳	7
③30～34歳	14
④35～39歳	10
⑤40～44歳	16
⑥45歳以上	13
有効回答数	63

6. 【社会人】修士課程で医学・医療に関して学びたいと考えていますか。



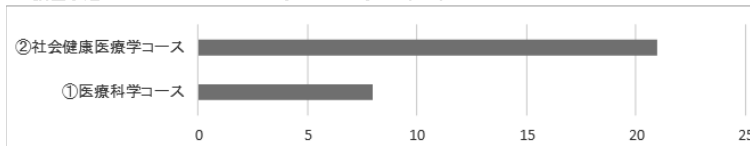
①進学したい	3
②もう少しキャリアを積んでから進学したい	0
③今はわからない	28
④修士課程進学は考えていない	31
有効回答数	62

7. 医学・医療のどの分野での学修が将来のキャリアアップに役立つと考えますか。(複数回答可)



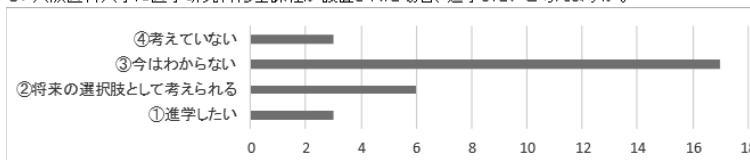
①臨床の現場での検査・診断の実際	8
②臨床の現場での治療の実際	9
③医学の現場での研究の実際	4
④公衆衛生学、疫学などの社会医学	12
⑤医療統計学などのデータ科学	15
⑥災害医療などの災害危機管理学	11
⑦医療安全などの病院管理学	2
⑧在宅医療、終末期医療などを含む福祉	10
⑨健康・疾病に関わる社会行動科学	12
⑩その他	10
有効回答数	83

8. 設置予定の2つのコースのどちらで学びたいと考えますか。



①医療科学コース	8
②社会健康医療学コース	21
有効回答数	29

9. 大阪医科大学に医学研究科修士課程が設置された場合、進学したいと考えますか。



①進学したい	3
②将来の選択肢として考えられる	6
③今はわからない	17
④考えていない	3
有効回答数	29

(是正事項) 医学研究科医科学専攻 (M)

3. <社会人学生及び教員にとって無理のないカリキュラムか不明確>

時間割や教員の勤務シフト等が明示されておらず、社会人学生及び教員それぞれにとって無理なく実現可能なカリキュラムとなっているか不明確であることから、明確に説明すること。

(対応)

社会人学生及び教員にとって無理なく実現可能なカリキュラムとなっていることを明確に説明するため、本申請書類中のシラバスに記載している「開講曜日」をもとに時間割を作成し、それを「設置の趣旨等を記載した書類」の「10-3 授業の実施方法」(20ページ)に新たな資料(【資料14 時間割】)として追加する。

資料14に示す通り、研究科共通科目「統合講義」は月曜日の夕方、専攻科専門科目の共通科目(8単位以上選択)と各コース科目(4単位以上選択)は火曜日～金曜日の夕方以降、特別研究の指導は土曜日の午前となっており、社会人学生にとって無理なく受講できるものである。また、教員に関しては、すべての授業がオムニバス形式であり、各教員の担当時間数は概ね年間当たり1～2コマであるため、修士課程設置に伴う負担の増加は大きくない。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (20ページ)

新	旧
<p>10-3 授業の実施方法</p> <p>授業については、平日の17時以降を原則とするが、個別対応が可能であれば平日の午前中にも実施する。必要に応じて、夏期・冬期に集中授業を実施する。</p> <p>なお、研究科共通科目である「統合講義」は、現在、博士課程において通年で月曜日17時～20時に行っている。<u>【資料14 時間割】</u></p>	<p>10-3 授業の実施方法</p> <p>授業については、平日の17時以降を原則とするが、個別対応が可能であれば平日の午前中にも実施する。必要に応じて、夏期・冬期に集中授業を実施する。</p> <p>なお、研究科共通科目である「統合講義」は、現在、博士課程において通年で月曜日17時～20時に行っている。</p>

(追加) 設置の趣旨等を記載した書類【資料 14 時間割】

医学研究科医科学専攻 (修士) 第 1 学年時間割

	時限	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 年 前 期	1	9:00~ 10:30					特別研究
	2	10:40~ 12:10					特別研究
	3	13:00~ 14:30					
	4	14:40~ 16:10					
	5	16:20~ 17:50	統合講義 (17:00~ 20:00)			生体機能構 造学概論	
	6	18:00~ 19:30		医療統計学 基礎		病理病態学 概論	病院災害危 機管理総論
	7	19:40~ 21:10		公衆衛生学 基礎		検査診断学 演習	治療学演習
1 年 後 期	1	9:00~ 10:30					特別研究
	2	10:40~ 12:10					特別研究
	3	13:00~ 14:30					
	4	14:40~ 16:10					
	5	16:20~ 17:50	統合講義 (17:00~ 20:00)			臨床内科学 概論	社会行動科 学概論
	6	18:00~ 19:30		多職種連携 と病診連携 総論		臨床外科学 概論	社会健康医 療データ・ サイエンス 演習
	7	19:40~ 21:10		公衆衛生 学・疫学の 基本		検査診断学 演習	治療学演習

黄：共通科目、緑：医療科学コース科目、青：社会健康医療学コース科目

医学研究科医科学専攻（修士）第2学年時間割

	時限	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	
2 年 前 期	1	9:00～ 10:30					特別研究	
	2	10:40～ 12:10					特別研究	
	3	13:00～ 14:30						
	4	14:40～ 16:10						
	5	16:20～ 17:50						
	6	18:00～ 19:30	総合医療・ 救急医療学 概論	医科実験演 習		感覚器機能 形態医療学 概論	泌尿生殖・ 発達医療学 概論	
	7	19:40～ 21:10						
2 年 後 期	1	9:00～ 10:30					特別研究	
	2	10:40～ 12:10					特別研究	
	3	13:00～ 14:30						
	4	14:40～ 16:10						
	5	16:20～ 17:50						
	6	18:00～ 19:30		医科実験演 習		医療機器開 発概論	急性期・慢 性期医療総 論	
	7	19:40～ 21:10						

黄：共通科目、緑：医療科学コース科目、青：社会健康医療学コース科目

(是正事項) 医学研究科医科学専攻 (M)

4. <留学生に係る対応が不明確>

設置の必要性に係る説明に「アジア地域からの幅広い学部出身者の入学を受け入れる」との記載があるが、留学生の日本語能力等の資格要件や、入学後の履修指導や生活指導等書に係る配慮等について具体的な説明がないことから、留学生の受入れに係る対応について明確に説明すること。

(対応)

本学は中山国際医学医療交流センターを通して、米国・ハワイ大学、ロシア・アムール医科アカデミー、タイ・マヒドン大学、中国医科大学、台北医学大学、韓国カソリック大学、ソウル国立大学及びシンガポール国立大学医学部等と国際交流協定のもとカウンターパート方式で交互に学部学生の留学を実施してきた実績がある。これらの交流において、受け入れた留学生の指導は英語で行っている。また、平成31年4月には国立台湾大学医学部との間で単位互換に関する協定を締結し、令和2年度から4週間の「選択臨床実習」での単位互換を行うことが決定しており、学部レベルでは恒常的に留学生を受け入れることとなる。

本修士課程においては、演習科目は英語での対応・指導が可能であり、特別研究では英語による修士論文作成指導も可能である。ただし、日本人学生と一緒に着座して受講する講義科目と研究科共通必須科目「統合講義」は英語での開講は困難であると考えられる。これらに対しては、担当教員や正・副指導教員による補講やバックアップが必要になると思われる。留学生は社会人学生ではないので、平日の昼間に個別の対応を行うことが可能である。

また、特に途上国からの留学生の生活支援については、宿舍の斡旋、本学及び本学同窓会が有する独自の奨学金制度の活用、規程による授業料の減免措置などを予定している。日本語能力が十分とはいえない学生に対する生活全般の支援体制については、個々の学生の要望に合わせて、指導教員を中心に整えていく。

以上について「設置の趣旨等を記載した書類」の「4-1 医科学専攻」(10-12 ページ)において説明する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (10-12 ページ)

新	旧
4-1 医科学専攻 本修士課程は、人材養成と実学研究重視を掲げた建学の精神のもと、「医学の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文	4-1 医科学専攻 本修士課程は、人材養成と実学研究重視を掲げた建学の精神のもと、「医学の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文

化の進展に寄与すること、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うこと」を目的として、社会、医療、教育研究の現場において活躍できる学識、人間性、研究能力を備えた保健医療従事者、研究者、企業人を養成するため、多様なキャリアパスに対応した教育課程をカリキュラムポリシー（表 3）に基づいて編成する。

（表 3：省略）

既設の医学専攻（博士課程）では 1 専攻の下に 5 コース（予防・社会医学研究コース、生命科学研究コース、高度医療人養成コース、再生医療研究コース、先端医療研究コース）が設置されている。これにより、講義・演習等において授業科目（教室）間で柔軟に連携し、学生の教育・指導に参画できる体制が確立している。

医科学専攻は 1 専攻 2 コースとし、同様の柔軟な体制で、社会の多様な分野で活躍する人材の養成に対応できる目的別のコースにおいて教育研究を展開する。

本学は中山国際医学医療交流センターを通して、特にアジア地域諸国の大学との連携を深めてきた実績がある。単位互換制度により本課程の学生がこれらの国々で長期にわたる研究を実施し、また将来的には外国人学生を本課程に受け入れることも想定している。

留学生に対する指導に関しては、本修士課程においては、演習科目は英語での対応・指導が可能であり、特別研究では英語による修士論文作成指導も可能である。ただし、多くの講義科目と研究科共通科目「統

化の進展に寄与すること、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うこと」を目的として、社会、医療、教育研究の現場において活躍できる学識、人間性、研究能力を備えた保健医療従事者、研究者、企業人を養成するため、多様なキャリアパスに対応した教育課程をカリキュラムポリシー（表 3）に基づいて編成する。

（表 3：省略）

既設の医学専攻（博士課程）では 1 専攻の下に 5 コース（予防・社会医学研究コース、生命科学研究コース、高度医療人養成コース、再生医療研究コース、先端医療研究コース）が設置されている。これにより、講義・演習等において授業科目（教室）間で柔軟に連携し、学生の教育・指導に参画できる体制が確立している。

医科学専攻は 1 専攻 2 コースとし、同様の柔軟な体制で、社会の多様な分野で活躍する人材の養成に対応できる目的別のコースにおいて教育研究を展開する。

本学は中山国際医学医療交流センターを通して、特にアジア地域諸国の大学との連携を深めてきた実績がある。単位互換制度により本課程の学生がこれらの国々で長期にわたる研究を実施し、また将来的には外国人学生を本課程に受け入れることも想定している。

合講義」は英語での開講は困難であると考
えられる。これらに対しては、担当教員や
指導教員・副指導教員による個別の補講や
バックアップを行っていく。

また、留学生の生活支援については、宿
舎の斡旋、本学及び本学同窓会が有する独
自の奨学金制度の活用、規程改正による授
業料の減免措置などを予定している。日本
語能力が十分とはいえない学生に対する日
常生活支援の体制については、個々の学生
の要望に合わせて、指導教員を中心に整え
ていく。

(是正事項) 医学研究科医科学専攻 (M)

5. <履修モデルが不明確>

教育課程の大部分が選択科目によって構成されているため、学生が希望するキャリアパスに照らして履修すべき科目を選択することが困難と考えられることから、育成する人材像に照らした履修モデルを複数明示すること。

(対応)

学生が希望するキャリアパスに応じた、各コースの履修モデルを作成し「設置の趣旨等を記載した書類」の「6-2 履修指導の方法」(14-15 ページ)に、新たな資料(【資料7 履修モデル】)を追加する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (14-15 ページ)

新	旧
<p>6-2 履修指導の方法</p> <p>本課程では、必修科目「統合講義」を1年次で履修しつつ、専門科目も1、2年次において履修し、基本的知識と研究技法をコースワークで修得する。また、より早期から研究活動の開始が可能となるよう、1年次から研究指導を担当する教員を学生に配置する。なお、研究指導教員は、学生の希望を尊重し、相談に応じながら、入学から修了までの履修計画について指導する。</p> <p>入学時に履修に関するオリエンテーションを実施し、教育課程、履修方法、履修モデル、時間割、研究指導の進め方等について説明を行う。また、学生の入学目的、研究目的等を指導教員との個別面談等により再確認し、それに沿った適切な履修モデルを提供する。<u>【資料7 履修モデル】</u></p>	<p>6-2 履修指導の方法</p> <p>本課程では、必修科目「統合講義」を1年次で履修しつつ、専門科目も1、2年次において履修し、基本的知識と研究技法をコースワークで修得する。また、より早期から研究活動の開始が可能となるよう、1年次から研究指導を担当する教員を学生に配置する。なお、研究指導教員は、学生の希望を尊重し、相談に応じながら、入学から修了までの履修計画について指導する。</p> <p>入学時に履修に関するオリエンテーションを実施し、教育課程、履修方法、履修モデル、時間割、研究指導の進め方等について説明を行う。また、学生の入学目的、研究目的等を指導教員との個別面談等により再確認し、それに沿った適切な履修モデルを提供する。</p>

(追加) 設置の趣旨等を記載した書類【資料7 履修モデル】

履修モデル

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	医療科学コース			社会健康医療学コース				
				①	②	③	①	②	③		
専門科目	共通科目	生体機能構造学概論	1前	2	○		○	○			
		病理病態学概論	1前	2		○	○	○			
		臨床内科学概論	1後	2	○				○	○	
		臨床外科学概論	1後	2	○	○				○	
		総合医療・救急医療学概論	2前	2			○	○	○		
		泌尿生殖・発達医学概論	2前	1		○	○		○		
		感覚器機能形態医療学概論	2前	1		○				○	
		医療統計学基礎	1前	2	○	○		○	○	○	
		公衆衛生学基礎	1前	1			○	○	○	○	
	医療科学	検査診断学演習	1通	2	○	○	○				
		治療学演習	1通	2	○	○					
		医科実験演習	2通	2			○				
		医療機器開発概論	2後	1	○						
		社会健康医療学	病院災害危機管理総論	1前	1						○
			多職種連携と病診連携総論	1後	2					○	○
	急性期・慢性期医療総論		2後	1						○	
	公衆衛生学・疫学の基本		1後	2				○	○		
	社会健康医療データ・サイエンス演習		1後	1				○			
	社会行動科学概論		1後	1				○	○		
特別研究		1-2通	8	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
必修科目	統合講義	1通	10	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
合計		—	—	31	30	30	31	31	30		

◎：必修科目 ○：選択科目

医療科学コース①：医療分野での研究開発を目指す工学部出身者

医療科学コース②：キャリアアップを目指す病院勤務の診療放射線技師

医療科学コース③：キャリアアップを目指す病院勤務の理学療法士

社会健康医療学コース①：保健・福祉に関するデータ活用力の獲得を目指す行政担当者

社会健康医療学コース②：キャリアアップを目指す保健・福祉施設勤務の保健師

社会健康医療学コース③：病院勤務を目指す医療経営系学部出身者

(是正事項) 医学研究科医科学専攻 (M)

6. <成績評価の対象が不適切>

シラバスにおいて、「授業の出欠席状況」を成績評価の対象としている不適切な科目が散見されることから、適切に改めること。

(対応)

授業への出席状況はあくまでも成績評価のための要件であって、出席を点数化するのではないことを明確に説明した。

(新旧対照表) シラバスの「評価方法」

新	旧
討議への参加度 (40%)、レポート (60%) による。 <u>ただし、実授業時間の 2/3 以上出席しなければ評価を受けることができない。</u>	講義への出席と討議への参加度 (40%)、レポート (60%) などによる。

(改善事項) 医学研究科医科学専攻 (M)

7. <適切な成績評価が可能か不明確>

オムニバス方式で実施する科目について、非常に多くの教員が担当する科目が散見されるが、多くの教員が関与した上で成績の評価の際に公正公平な成績評価が可能な体制となっているか不明確なため、明確に説明すること。

(対応)

オムニバス形式の授業科目ごとに、科目責任者（原則として教授）を置く。科目責任者は各担当教員の授業内容をコーディネートするのみならず、レポート等の評価における共通の評価表や採点基準を設けることにより、成績評価において公正な評価を可能とする。

本学の学部教育においても、ほとんどの講義・実習科目はオムニバス形式（臨床科目においては、各科目の担当教員数は10～20名）であるが、同様の科目責任者を置き、上述の評価法を用いることにより、筆記試験のみならず臨床実習のパフォーマンス評価においても公正公平な成績評価を行っている。

「設置の趣旨等を記載した書類」への明記については「審査意見8」への対応と合わせて行う。

(改善事項) 医学研究科医科学専攻 (M)

8. <教員組織の適正性が不明確>

「本課程の全専任教員は、本学医学部及び大学院医学研究科医学専攻（博士課程）の教員を兼務している」との記載があるが、本課程の運営に支障を来すことなく、教育・研究に係る質を担保できる適正な教員組織となっているか不明確であることから、明確に説明すること。

(対応)

「審査意見7」への対応で説明したように、本学の医学部と大学院医学研究科のほとんどの授業はオムニバス形式である。各科目には科目責任者が置かれており、授業内容や成績評価のみならず、担当教員の配置についても配慮し、特定の教員に過度の負担がかかることのないようにしている。本修士課程の設置による専任教員の授業担当時間の増加は、教員当り概ね年間1～2コマにとどまり、本課程の運営に支障をきたすことなく、教育・研究の質を維持することは可能である。

以上について「設置の趣旨等を記載した書類」の「5-2 教員組織」（13-14 ページ）において説明する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (13-14 ページ)

新	旧
<p>5-2 教員組織体制</p> <p>本課程の全専任教員は、本学医学部及び大学院医学研究科医学専攻（博士課程）の教員を兼務している。共通科目10単位分を研究科共通とすることは、教員の負担軽減にも寄与している。また、専門科目の講義・演習にオムニバス形式を採用し、<u>各科目には科目責任者を置く。科目責任者は授業内容、授業内容に適した教員の配置、成績評価等を統括する。担当教員の配置においては、学部や博士課程における各教員の負担も考慮し、本課程の運営に支障をきたすことなく、各教員の研究活動や学部教育・博士課程教育の質を維持する。</u></p>	<p>5-2 教員組織体制</p> <p>本課程の全専任教員は、本学医学部及び大学院医学研究科医学専攻（博士課程）の教員を兼務している。共通科目10単位分を研究科共通とすることは、教員の負担軽減にも寄与している。また、専門科目の講義・演習にオムニバス形式を採用することにより各教員の負担を軽減し、各教員の研究活動や学部教育・博士課程教育の質の低下を防ぐ。</p>